

「日本の大学はどういう感じだろう。日本の大学生はブラジルの大学生と何が違うのかな。」といつも思っていました。それで JICA の「日系社会次世代育成研修（大学生招へいプログラム）」という新しい研修が出たと聞いたとき、喜んでさっそく参加する手続きをしました。作文作りや面接のときも精一杯頑張りました。そして、「あなたは合格しました。」と書いてあった JICA からのメールが届いたとき、思いがけない良い通知で本当に嬉しかったです。



ブラジルを出発する前に合格者たちが集まり、オリエンテーションが行われ、そのときもすごく嬉しくて出発するのが待ちどろしくてたまりませんでした。

ラテンアメリカを含めて 20 人の研修生たちが 7 月 1 日に JICA 横浜に到着、皆さんが初夕食をしながら楽しいお話しが始まり、一般の人はシャイでしたのでお話が静かでしたがだんだんと盛り上がっていきました。

翌日にオリエンテーション、日系社会や日系アイデンティティについての講義があり、横浜の移住歴史のウォーキングツアーもありました。横浜の港を出港し、ハワイや中南米アメリカへと移住した日本人たちの歴史や外国での生活を学び、「辛くても、移民たちは一生懸命頑張ったんだな！」と思い、とても感動しました。

Panasonic ミュージアムでは、Panasonic 製品の見本だけではなく、高校、または、予備校で学ぶ数学や物理学の理論が物理的にどう動くかを確かめられて簡単に扱える装置があり、学生達はその機械を使えば理系にもっと興味を持つことができると思います。

僕たちは文系、理系と医学部のグループに別れ、横浜国立大学、東海大学に通い、医学部の女性たちは東京女子医科大学へ行くことになりました。

横浜国立大学では居合道やゆかた着付けを体験し、日本の伝統的な服や武道にふれあう事ができ、とても楽しくて良い勉強になりました。その後、日本の大学生とのディスカッションをしました。日本人の学生と色々な情報を交換していると、日本の教育、又は、政治問題や生活などがブラジルと比較してあまりにも大きな違いがあることにびっくりしました。

文化的な体験やディスカッションだけではなく、大学のさまざまな研究室を見学しました。例えば「ふうどうじっけんしせつ風洞実験施設」や「こうくううちゅう航空宇宙システム研究室」、おおがたじっけんすいそう「大型実験水槽を含む実験室」など色々なことを見学し、大変良い勉強になりました。そして僕が一番おどろいた研究室は「ききぶんせきひょうか機器分析評価センター」と言って、最大のけんびきょう顕微鏡を使用して原子の全てを調べる研究室であり、その顕微鏡を操作するには大変複雑な装置になっていこれを理解することができよい経験になりました。

横浜国大に 1 週間の訪問、その後、研修生全員で東海大学の病院、または、水族館を見学しました。とても大きな病院でたくさんの手術室や手術用の機械があり、サンパウロにあるアルバー

ト・アインシュタイン病院のようでした。水族館もとても広くて魚のさまざまな種類や大きいなサメやヘイがいて、海のそこにいるようでした。東海大最終日に研修生それぞれが各国の文化を発表し、短い時間でしたがとても楽しいプレゼンテーションでした。

最後に研修旅行で京都と神戸へ行き、京都で有名な清水寺、祇園、二条城や神戸などを訪問致しました。昔、外国へ移住する日本人たちは神戸に宿泊し、翌日、港まで歩いた道を僕達に案内して下さいました。

今回の研修に選ばれたラテンアメリカの20人の新しいお友達とめぐり合うことができ、楽しく一ヶ月間、日本の全てを観て勉強することができ、その他、各国の友達との友情が高まり、最後の日は別れが辛くて、寂しくて、悲しくて、涙ぐんでお別れの挨拶をしたときのイメージが今でも心に残り、一生忘れられない良い思い出になりました。